

フランコの人物像 ②伝統的軍人としての性格

組 番 氏名

◎プリモ・デ・リベラ独裁

(1 プリモ・デ・リベラ独裁)とは

スペインの軍人プリモ・デ・リベラによる独裁政権。プリモ管轄のカタルーニャにおける労働・自治運動を契機に引き起こしたクーデターにより発足。当時、第一次大戦から続く(2 **インフレーション**)による給与の低下、ロシア十月革命の成功を由来とする地方部の独立運動、植民地モロッコでの民族運動軍への敗北(3 **アヌアル事件**)など多数の問題が併発していた。軍首脳や国王への責任追及の恐れを招き、その收拾策としてクーデターが実行された。

〈独裁下の政策〉

(4 **コーポラティヴ**)の推進

職能代表制。プリモの組織した国家顧問会議や愛国会議では彼の支持基盤である軍人や司法のみならず、経済団体や大学人・社会労働党系の組合員など分野をまたぎメンバーが選出された。

(5 **経済的ナショナリズム**)

経済審議会を多数設置。労資関係を安定させるため社会政策を推進。また外国資本の企業を廃し石油独占会社など国内銀行の出資による企業の設立を行なった。

◎フランコ体制の完成

(6 **スペイン内戦**)

左派である人民戦線の支持する(7 **第二共和政**)に右派である反革命国民戦線が蜂起する形で起きた内戦。モロッコに進駐していた(8 **フランコ**)がドイツとイタリア支持のもとスペイン本国へ上陸。数々の右派、保守政党を一つにまとめ、(9 **統一ファランヘ党**)を創設して、独裁体制への基盤を確保。フランコによるマドリードの占拠で終結した。ファシズム・反ファシズムの代理戦争の側面を持つ。

フランコによる国内政策

(10 **有機体的議会**)

国会設立法により制定された議会。統一ファランヘ党のみならず、大学総長・法曹界代表などあらゆる分野の代表者から構成された。勢力均衡を目的とした方策。

(11 **アウタルキーア政策**)

内戦で崩れた国内経済を立て直すための政策。輸入や為替の厳格な管理、商品流通の許可制、原料や食糧の配給制度がとられた。しかし低い買入価格による小麦生産量の減少や石油輸入の増大化を招き失敗。

◎二つの独裁の共通点

プリモ・デ・リベラ独裁

フランコ体制

地方自治や労働問題による国内分裂收拾を目的
コーポラティヴによる勢力均衡
経済的ナショナリズム

政治体制を巡る内戦による国内分裂收拾を目的
有機体的議会による勢力均衡
アウタルキーア政策

- ① 国内の分裂を伴う政治的混乱を軍が非常事態として蜂起し、軍政を執り行なっている
- ② 勢力の均衡を図り体制の安定化を目指す傾向がみられる。
- ③ 国内中心の経済体制を確立し内需拡大と社会政策の充実を狙った。